



学校だより 11月号

横浜市立日吉南小学校

令和5年10月31日

予測不能な未来社会を切り拓いていく

副校長 八田 安史

運動会

まさに天高し。今年度の運動会は目一杯の青空のもと、保護者の皆様、地域の皆様のたくさんの応援を受けて、きらきらと子どもたちが輝く運動会となりました。数年ぶりの全校一斉の運動会。これほど多くの人が集まり、子どもの活躍を支えてくださるのだと感動しました。誠にありがとうございました。

半世紀以上まち全体に愛されてきたさくら門の桜の伐採。伝統ある桜への思いを込め、長半纏を贈呈していただき感謝しています。今年度の6年生が、新たな長半纏の初代としてソーラン節を踊る姿は、とても堂々として立派でした。生き生きと躍動感のある6年生の踊りは、伝統の始まり、未来への希望を感じました。日吉南小学校の伝統を繋いでいく後輩たちの目に、6年生は憧れの姿として映ったことと思います。

生成AI

令和5年7月4日文部科学省初等中等教育局から「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」が出されました。その中で、「ChatGPTやBing Chat、Bard等の対話型生成AIは、…（中略）…民間企業等では多岐に亘る活用が広まりつつある。対話型生成AIを使いこなすには、指示文（プロンプト）への習熟が必要となるほか、回答は誤りを含むことがあり、あくまでも「参考の一つに過ぎない」ことを十分に認識し、最後は自分で判断するという基本姿勢が必要となる。回答を批判的に修正するためには、対象分野に関する一定の知識や自分なりの問題意識とともに、真偽を判断する能力が必要となる。また、AIに自我や人格はなく、あくまでも人間が発明した道具であることを十分に認識する必要がある。」など概要として示されています。

今やAIは我々の生活に非常に密着したものとなってきています。技術の進歩のスピードはとても目まぐるしく、子どもたちを取り巻く環境は短いスパンで大きく変わっていています。そしてそれに伴い、学校も時代に合わせて変化が求められています。



次代に向けて

生成AIで「未来の小学校の運動会」について画像生成したところ、左下の画像が生成されました。本当にこのようになるのか、そもそもこの姿が運動会といえるのか、疑問に思うことの方が大きいです。しかし、あくまでも「参考の一つに過ぎない」ことをふまえ、回答を批判的に修正することが大事だとしたときに、どのように考えられるでしょうか。もしかしたら、画像のようなメカニカルなスーツがあれば個の運動の力は関係なくなる未来がくるのかもしれませんが。昔から行ってきた競技はなくなり、新たな種目が行われるようになったり、保護者の参観の仕方も今は大きく変わったりしているのかもしれませんが。時代が加速的に変化し、自分も含め大人たちが経験してきたこととは比べられない「未来」を子どもたちは生きていくのだと思います。

予測不能な未来社会を切り拓いていく力を、子ども一人ひとりが身に付けていくことができるようにしていくことが大切だと考えます。今年の運動会で感じた、保護者や地域の皆様とのつながりを大切に、学校はこの先も常に考え議論し、力を合わせて前進していきたいと考えております。